



みんなで子育て No.14

あけましておめでとうございます。令和3年が始まりました。集まっての家庭教育学級は難しい状況ですが、家庭教育は毎日行われています。今回も家庭教育を支援するための講座や研修の紹介をしてみたいです。今年度もあと3か月できることをやっていきましょう。

各市町には家庭教育を進めていただく担当の部署があります。担当者は交流や研修を行いながら質の向上に努めています。最初は、その様子を紹介します。

第2回岐阜地区家庭教育担当者会

令和2年12月11日(金)会場：各務原市陵南福祉センター

目的：岐阜地区の各市町の子どもたちの健やかな成長のために、各市町担当者が情報を交換し合い、研修を重ねることを通して、家庭教育の充実及び地域での子育て支援に役立てられるようにすること

○講演 「各務原市の子ども館の活動」

講師 かわしま子ども館 館長 田口美智代 氏

各務原市の5つの子ども館(児童館)は連携していること、館ごとに特徴的な活動が行われていること等が説明されました。

「みんなであそぼ」「赤ちゃんあつまれ」などは子育て中の親子がふれあいの広場として遊びながら、交流したり、何か作ったり、学んだりできる場所として子どもたちの笑顔あふれる様子が紹介されました。

「ばあば・じいじとあそぼ」といった2世代3世代のふれあいも行われています。また、支えあいの広場として、保健相談・育児相談ができる環境を整えています。

地域で楽しく利用されている様子がわかります。そのことは隣の「あさひ子ども館」の見学でも確認できました。

○施設見学：あさひ子ども館 案内 館長 横山麻弓 氏

広い敷地で、芝生、畑、遊具もあります。館は2階建てで、中には、絵本(大人の絵本も)・子育てに役立つ本の部屋、「何でもノート」が置かれてある部屋、小学生の部屋、広いホール、木育の部屋等があります。研修用の部屋もあり充実しています。

見学者に評判が良かったのは、リサイクルコーナー「ゆずってください」「ゆずります」の掲示板でした。

○交流及び説明

岐阜地区の市町からの家庭教育学級及び子育て支援に関する情報を確認しました。家庭教育支援チームについて再確認できました。

今年度の地区の家庭教育学級の様子や子ども館の様子について紹介しました。感染防止対策を行いながらの活動やオンラインでの開催等の事例を学びました。

「令和3年度岐阜地区家庭教育推進の方針と重点」について確認ができました。



実施日：11月20日（金）10:30～11:30 場所：岐阜市マーサ21
 講師：岐阜県環境生活政策課 課長補佐 山森 邦久 氏



《テーマ》：「健やかな体と心の発達に大切なこと」

～お子様への接し方・スキンシップあそび～

「nico nico」は0歳～未就園児のお子さんとその保護者のための広場です。
 コロナ感染防止対策：消毒・マスク着用、参加を5組とし、距離を取り、その場での活動が中心

◆活動内容

- 1 親子遊び わらべ歌・音楽に合わせて
- 2 お話
 - スキンシップの効果・母、父のスキンシップ
 - ・年齢に応じたスキンシップ
 - 心の発達、褒めること
 - スマホについて（お話）
- 3 交流（忙しい時に子どもに「だっこ」とせがまれた時の対応）
- 4 絵本朗読

とびますよ、
 びょーん
 楽しい！！



<感想等>

- ・心からこの講座を聞いてよかったです。日々忘れていたスキンシップや子どもに対する考え方を見直す良い機会になりました。スマホの話は心当たりがあり、自分目線で考えすぎて子ども目線で今一度考えるきっかけになりました。子どものことを自分本位ではなく子どもの立場に立って考えることの大切さを学びました。
- ・たくさん遊びをして頂き子どもが笑顔になってよかったです。スマートフォンや子育てに関する心にひびくお話が聞けてこれから子どものために子育てを頑張ろうと思いました。



北方町教育委員会 家庭教育講座

「アンガーマネジメント～子どものイライラとどう向き合うか～」

講師：NPO 法人「あゆみだした女性と子どもの会」 理事長 廣瀬 直美 氏
 実施日：12月15日（火）10:00～11:30 場所：ホリモク生涯学習センターきらり

○内 容

- 1 怒ることのメリットとデメリットを考える。
 - 2 この1週間で怒ったことを思い起こす。
 - 3 怒りとは何か：こうあるべき（理想と現実のギャップ）
 - 4 問題となる4つの怒り（強度・持続性・頻度・攻撃性）
 - 5 アンガーマネジメントの3つのコントロール（トレーニングする）
 - ① 衝動性のコントロール：6秒待つために、深呼吸や「大丈夫、大丈夫、大丈夫」等のポジティブな言葉を唱える。
 - ② 思考のコントロール：許せる範囲の明確化をする。
 - ③ 行動のコントロール：怒りの内容が変えられるか考える。
- ・怒りが家庭にあると怒りの連鎖を起す。怒りの連鎖を断ち切ろう。

○参加者の感想

- ・子どもの自己肯定感が低いように感じます。子どもの人権を否定することを言っていたのではないかと、基準が明確でない等、当てはまるものが多かったように感じます。怒る前に深呼吸またはポジティブな言葉を考えたいです。
- ・感情に任せて怒ったりすることがあったと思います。体をポンポンとたたいて6秒を数えたり、深呼吸をしたい。紙に書いて貼って子どもにも説明してトレーニングをしたい。

○コメント

怒るということは、よくないことと思われがちですが、自然な感情で必要なことだと話されました。怒って後悔しないためには、怒りに任せて怒る前に6秒待てる方法を身に着け、自分が何で怒っているのかを具体的に知るために、怒りの分析をするための「怒りの日記(記録)」が必要です。特に家庭の中での怒りは子どもへの影響が大きくなります。お話を聴いて、3つのコントロールに取り組もうという気持ちになりました。



企業内家庭教育研修を今年度新規で実施。岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業です。

株式会社平成調剤薬局

実施日:令和2年12月8日(火)

13:30~14:30

研修テーマ:「家庭教育でも大切にしたい、感動接客を支える社内コミュニケーションの秘訣」

講師:心理セラピスト 若井 沙苗 氏



●研修内容 職員19名参加

最初に4,5人のグループで「感動接客を受けた経験」の交流を行い、イメージを共有しました。次に「感動接客の要素」を交流し、「接客とは何でしょう」から、ホスピタリティについてのお話、その後2人一組で、聞く姿勢のない相手との会話のロールプレイ、「風通しの良い環境」、「聴く力」についてのお話の後、今度は「聴く姿勢」での会話のロールプレイを行いました。「感動接客の始まりは社内の信頼関係から」と結び、各店内でのスタッフ同士での関係について話されました。

《参加者の感想》

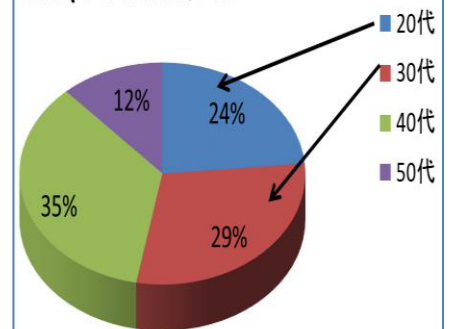
- ・社内の環境が良くないと、良い接客が出来ないという事をあらためて感じました。
- ・相手の気持ちを読み取るのは、しっかり目を見るのが大事、あいづちをすると聴いている方も話している方も安心感があると思いました。
- ・スタッフ間でのコミュニケーション等にも、もっと気を使っていければと思います。
- ・お客様のみならず、スタッフみんなの意見をよく話し合うことにします。
- ・相手の立場に立って、話したり、聞いたりすることを意識したい。



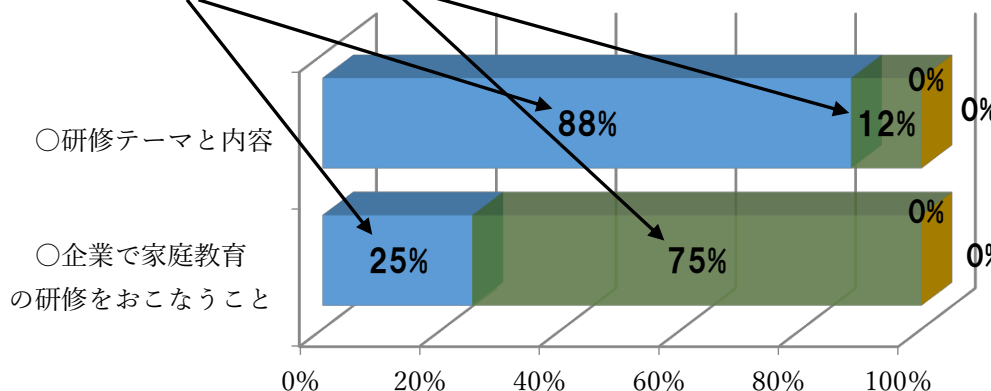
コメント

各店の中心となる方が集まっています。「接客は店の風通しの良い環境づくりから」というお話に納得の様子。「聴く姿勢」のロールプレイを通して、会話が進むにつれて、うなずきや手振りが増える場面があり、伝えたい、聞きたいという姿勢が明らかに出ていたことがわかります。聴く姿勢の明確な感覚を持つことができたと感じました。この内容は家庭でも、特に子どもへの接し方に通じるものがあり、体を正対し、目を見て、うなずきながら聴く事の大事さが伝わる研修となりました。

年齢(平成調剤薬局)



■ 1 大変よい ■ 2 よい ■ 3 あまりよくない ■ 4 よくない



岐阜市立長森東小学校「わが家のステイホーム」より

「心ほかほかわが家のステイホーム」の募集に応えていただき、通信No.7で紹介しました。
今回も心温まるお話がたくさん紹介します。



家で時間が増え、低学年でもできるお手伝いをお願いしました。洗たく物を干すのを頼みましたか朝起きたらすんで手伝ってくれるようになり、自分の役割に責任を持ってやっていたと感じます。ステイホーム中は手紙も何通も書いてくれて、私の誕生日には「だいすきだよ」「たんじょうびおめでとう」と書かれてありました。普段、はずかしがって言えない気持ちを知ることができ、とてもうれしくてじんわりと涙が出ました。(保護者)

ステイホームの時は、お昼ご飯づくりに挑戦しました。1日目ママ、2日目お姉ちゃん、3日目私と妹の順番で1日ずつ作りました。そのおかげでホットケーキが作れるようになりました。いつもみんなが好きな果物をのせて「おいしい」と言ってくれてうれしかったです。(児童)



休校中に、お兄ちゃんの部屋をこわして、最初から作り直しました。いろいろな木材や断熱材やシートや壁、壁紙を使っていろいろな事をしました。毎日、何カ月か使ったけど楽しかったです。パパとママとお姉ちゃんと私だけで、作ったので「いかいとすごいな」とはじめて実感しました。「やってよかったな」と思いました。(児童)

私の仕事の間、近くに住む祖母に娘と留守番を頼みました。娘も大きくなり祖母との時間も減っていたので、一緒にマスク作りをしたり、料理をしたり楽しい留守番になっていたようで、祖母も喜び、娘もいろいろな料理ができるようになり、良い時間になったと思います。運動不足になると思い、娘と2人で毎日ダンストレーニングを続けることができました。おかげでコロナ太りにならず、サイズダウンできました。(保護者)

在宅ワークの私が、仕事の合間に昼食作りをするのはとても大変でした。その様子を見かねて、中学1年の息子と小学5年の娘が、平日の昼食作りを買って出てくれました。家庭科の勉強だと言って、お味噌汁や、チャーハン、豚肉のしょうが焼きなど、兄妹で協力して作ってくれたお昼ご飯は、とてもおいしかったです。コロナ禍で、兄妹の力を合わせて頑張ってくれたことに、大変うれしく思いました。(保護者)

いつもは、いそがしい父。あまり話す時間がありませんでした。ステイホーム中、父の提案でN/V学校がありました。1時間目は国語、2時間目は算数、3時間目は体育、4時間目は理科でした。国語では音読や漢字をしました。算数は少し苦手なあまりのある割り算でした。3時間目は1輪車や縄跳び、父の得意なバレーボールを教えてくださいました。一番楽しかったのは、4時間目、境川のコイを観察しに行きました。1匹だけ色がついていて、かわいかったです。ステイホーム中は、できないことがたくさんできました。(児童)